

J
Japan
Cardiovascular
Research
Foundation
CRF
2023
11
vol.12

財団季報



公益財団法人
循環器病研究振興財団
Japan Cardiovascular Research Foundation

日本人気質？

公益財団法人 循環器病研究振興財団
理事長 北村 惣一郎



令和5年はとにかく暑い夏でした。熱中症といささか区別の付け難い症状を呈する新型コロナも型を変えながら、まだまだ隆盛期にあります。患者数は分かりにくくなりましたが、推定では第9波とも云われる位大勢の感染がおこっているとされます。しかし、人々はほとんど気にしている様子は無くなりました。人の集まりはコロナ禍の8割以上に戻り、私達の会合でも、元通りの集会型が増えました。人々はつい最近までコロナで苦しんだり、知り合いや家族の死亡が起こった2、3年前の惨事を忘れ去ったのかと思えるほどです。私も第7回目のワクチン接種を受けましたが、人前でマスクをすることが激減しました。今年の暑さはマスクを避けさせています。冬になればインフルエンザも増えるので、またマスクをした方がよさそうです。それでも各店の入口、出口にはアルコールスプレーが設置し続けられ、手洗いの励行が続けられていることは救いであります。「手洗い」は「マスク」以上に全ての感染予防に有効です。日本人は昔から熱しやすく、冷めやすいと云われていますが、コロナ対策を見ていると、そのような気がしてきます。注意行動の継続が何事にも重要であります。

当財団が勧めている生活習慣病対策、健康寿命の延伸も「循環器病、脳卒中対策基本法」の制定により盛り上がったように見えますが、冷めやすい気質では効果は無くなります。私共の財団でもこの目標に沿って(1) 医師・研究者を対象とした高度な医学・医療研究開発支援 (2) 看護師を対象とした研究支援助成 (3) セミナー、講演会の開催を支援するための学術活動支援助成 (4) 最近の医学の進歩を踏まえ、これを一般の人達に向けて分かり易く説明するパンフレットの作成と配布、等の事業を行っていますが、これらの事業も長い間の継続があって初めて効果が見えるものであります。財団も長寿でないと目標達成は難しいですが、これらの事業を継続して支えて下さっているのが皆様からの御寄附であり、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

当財団の主な事業

1. 研究助成事業

循環器病に関する医学研究ならびに看護研究に対して行う助成事業。

(1) 公募研究助成

- ① バイエル循環器病研究助成
- ② 山内進循環器病研究助成
- ③ 循環器疾患看護研究助成

(2) 指定研究助成

- ① 個別研究
- ② 多施設共同研究



2023年度バイエル循環器病研究助成贈呈式

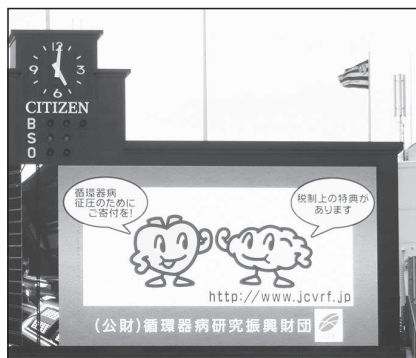


2023年度山内進循環器病研究助成贈呈式

2. 普及支援事業

循環器病の予防・診断・治療の普及向上を図るための事業。

- ① 研究業績集発行及び研究成果発表会
- ② 学術活動支援
- ③ 移植医療支援
- ④ 予防啓発と知識の普及
- ⑤ 機関誌の発行及びホームページサービス



2023年度阪神甲子園球場での予防啓発活動

3. 調査研究事業

当財団が自主事業として行っている循環器病に関する調査研究。

当財団の活動報告

令和5年5月13日（土）、普及啓発事業の一環として、シナジーワールドワイド・ジャパン合同会社からのご寄付により、「シナジーワールドワイド・ジャパン・循環器病研究振興財団健康セミナー」を東京（赤坂）で開催いたしました。

◇講演テーマ◇

若い世代と心臓病、どうする心臓
知られていない若い世代の心臓病

◇講師◇

天野 篤（学校法人順天堂 理事
順天堂大学医学部心臓血管外科特任教授）

SYN-RGY
シナジーワールドワイド・ジャパン・循環器病研究振興財団 健康セミナー

**若い世代と心臓病、
どうする心臓**

参加費 無料 定員 350名 (抽選)

知られていない若い世代の心臓病

2023年5月13日(土)
14:00~15:30 (開場13:30)

(会場) シナジーワールドワイド・ジャパン合同会社 本社(銀座駅前)

心臓病は疫学では増加傾向にあり、若くは次く日本人の死亡原因になっています。その為心臓病は恐ろしい病気というイメージがあります。この病気を正しく理解し、適切な治療を受け、予防対策をして、健康長寿を目指しましょう。

プログラム

1. 開会挨拶
2. 講演
 座長: 北村 浩一郎
 公益財団法人循環器病研究振興財団 理事長
 国立循環器病研究センター 名誉部長
 講師: 天野 篤
 学校法人順天堂 理事
 順天堂大学医学部心臓血管外科特任教授
3. 質疑応答

主催: 公益財団法人 循環器病研究振興財団 協賛: シナジーワールドワイド・ジャパン合同会社

当財団は、令和3年からシナジーワールドワイド・ジャパン合同会社主催の「National Wear Red Day 心臓病支援活動キャンペーン」を後援しております。

この健康セミナーは、頂いたご寄付を循環器病の普及啓発事業に活用したいとの思いから生まれたものです。セミナーは、キャンペーンの参加者が多かった東京にて開催いたしました。講師は、令和3年に天野篤先生にお願いいたしましたが、新型コロナのため2年の延期を経て、ようやく令和5年5月13日に実現することができました。当日は、雨にもかかわらずたくさんの方にご参加いただき会場は満席になりました。



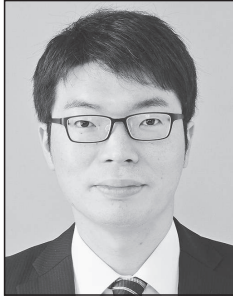
本セミナーでは、講師の天野先生から、若い世代の心臓病とは、どういう病気かということから、その予防や最新治療法まで1時間にわたりご講演いただきました。

会場には、30代40代の女性が多く、天野先生のユーモア溢れるお話、わかりやすいご説明、そして最新の外科手術のご紹介もあり、参加者のみなさんは熱心に聞き入られていました。

2023年度 研究助成対象者の紹介

バイエル循環器病研究助成

循環器関係の疾患について毎年度研究テーマを設定し公募を行っています。今年度は「動脈硬化と炎症・免疫メカニズム」のテーマで、34課題の応募の中から下記の4課題が選考されました（1課題250万円）。

**動脈硬化性疾患における血管炎症・免疫制御メカニズムの解明**

東京大学医学部附属病院 循環器内科 特任研究員 安達 裕助

動脈硬化は心血管疾患の主要な原因の一つと考えられており、本邦においても毎年多くの死亡を引き起こしています。動脈硬化の進行には、血管組織の炎症と免疫応答が深く関与していることが知られていますが、その制御メカニズムは未だ十分に明らかにされていません。本研究では、血管炎症および免疫制御メカニズムの詳細な解明を目指すとともに、人工知能を活用した血管炎症の非侵襲的検出と、動脈硬化性疾患の新たな診断方法の確立に向けた基礎・応用研究を目指しています。

**シングルセルオミックス解析で挑む、動脈硬化性疾患免疫メカニズムの解明**

神戸大学大学院医学研究科 内科学講座循環器内科学分野 医学研究員 江本 拓央

動脈硬化性疾患は依然として死因の大きな割合を占めています。申請者は、病変部の免疫細胞シングルセル RNA シークエンスを行うことで、動脈硬化性疾患の免疫細胞の特徴を明らかにすることに成功しました。本研究はその次のステップとして、全ゲノム解析を行い、オミックス統合解析を行うことで、ゲノム解析から疾患のリスク層別化を行い、さらに、疾患モデルマウスを用いてリスク層別化に基づいた治療法を探索することを目標とします。

**心血管システムにおける体細胞モザイクの解析とその臨床的意義に関する研究**

国立循環器病研究センター 心血管モザイク研究室 独立型研究室長 佐野 宗一

私たちは未だ心血管疾患に打ち勝っていない。新たな視点から病態を理解し、克服するためにはさらなる研究が必要である。申請者はこれまで、血液の体細胞モザイクであるクローン性造血と心血管疾患の関連性について研究してきた。しかし、心血管システム自体の体細胞モザイクについては臨床的意義どころか、その存在すら明らかではない。本研究では、この難解なテーマに挑戦し、解明したいと考えている。

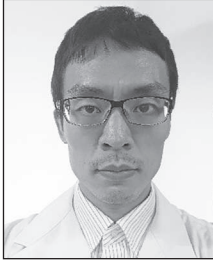
**クローン性造血が大動脈瘤を進展させる機序の解明**

名古屋大学医学部附属病院 循環器内科 病院助教 由良 義充

加齢と共に発症頻度が増加する大動脈瘤は、症状なく経過し破裂した場合には救命することが極めて難しい医療ニーズの高い疾患である。一方で、“クローン性造血”と呼ばれる現象が、免疫細胞の機能変化を介して、様々な加齢性疾患を引き起こすことが近年明らかとなってきた。本研究では高齢者にみられる“クローン性造血”に着目して、大動脈瘤の病態を明らかにし、将来の新規診断・治療の開発につなげることを目指す。

山内進循環器病研究助成

「不整脈」をテーマに、臨床、基礎、トランスレーショナル医学のいずれかの分野に関する研究の公募を行い、22課題の応募の中から下記の5課題が選考されました（1課題200万円）。



ヒト iPS 細胞モデルを用いたノンコーディング DNA 領域異常による遺伝性不整脈疾患の病態解明研究

京都大学大学院医学研究科 循環器内科学 医員 相澤 卓範

次世代シーケンスによる遺伝子解析技術により多くの遺伝子変異が疾患の原因として検出されてきていますが、大半はタンパクのコーディング領域に位置します。一方、それ以外の領域＝ノンコーディング領域は主に遺伝子発現調整に関わることが知られていますが、同領域の変異に関する同定・理解は十分ではなく、今後の研究課題と考えられます。本研究では、ノンコーディング領域に変異を持つ遺伝性不整脈家系を対象に、疾患発症の機序解明を目指します。



徐脈性不整脈の重症化に心臓ナトリウムチャネルのカップリングが与える影響についての研究

滋賀医科大学 循環器内科 助教 加藤 浩一

心臓ナトリウムチャネルは、心臓の電気現象を司るイオンチャネルの中でも最も重要な働きをしており、不整脈と関連が深いことから研究されてきました。最近、二つのイオンチャネルが共役して働くチャネルカップリングという概念が唱えられて、この古くて新しい研究対象の周辺が俄かに騒がしくなっています。私たちは、このチャネルカップリングが本当に存在するのか、あるのならそれが不整脈疾患の重症度にどう影響するのか、を明らかにすることを目的に本研究を行っています。



難治性心房細動に対する新たなアブレーションターゲットの探索に関する研究

国立循環器病研究センター 心臓血管内科 医師 鎌倉 令

心房細動に対するカテーテルアブレーションの成績は未だ十分ではありません。発生機序に個人差があり、一律なアブレーション方法では対応困難であることや、心外膜側に存在する心筋構造や自律神経叢が心房細動の発生・維持に関与することが近年明らかとなっています。本研究では、解剖学的情報に基づいた個別化アブレーションや、心外膜側の心筋や自律神経叢への治療が可能なケミカルアブレーションの有効性・安全性を検討することにより、難治性心房細動の新たな治療方針を提案することを目的としています。



リアノジン受容体のテトラマー構造安定化による心不全とそれに伴う致死的不整脈の治療法開発

山口大学医学部附属病院 第二内科 診療助教 中村 吉秀

我々は以前から筋小胞体膜上の Ca^{2+} 放出チャネルであるリアノジン受容体の研究を行っており、点突然変異・酸化ストレス・過剰な交感神経刺激などの負荷が加わるとチャネルが不安定となりカルモジュリンが解離することで Ca^{2+} 漏出を生じ心不全や致死的不整脈を発症することを報告してきました。本研究では心不全とそれに伴う致死的不整脈を筋小胞体不全病とらえた新しいコンセプトに基づく心不全時の致死的不整脈治療法の確立を目指します。



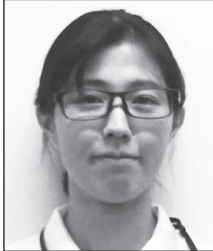
胎児頻脈性不整脈の新規診断法及び治療法の開発

国立成育医療研究センター 臨床研究センター 研究員 三好 剛一

胎児頻脈性不整脈は、無治療では胎児水腫に進行する予後不良の疾患になります。本研究では、胎児頻脈性不整脈に対する経胎盤的治療の医療現場への実装に向けて、抗不整脈薬の使用実態、問題点及び予後を明らかにするためのレジストリデータベースを構築します。さらに、胎児頻脈性不整脈の発現時における胎児心不全の重症度を反映する母体血中バイオマーカーを同定することで、胎児頻脈性不整脈に対する新たな管理方法の確立を目指します。

循環器疾患看護研究助成

循環器病の看護に関し自由課題で公募を行っています。今年度は下記の5課題が選考されました(1課題20万円)。



2型糖尿病患者におけるSGLT2阻害薬による食欲への影響

京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 博士課程学生 石川 恵子

糖尿病薬であるSGLT2阻害薬は尿へ糖を排出する働きを持ち、血糖降下や減量といった効果がある。一方で、SGLT2阻害薬開始6か月後に約100~200Kcal程度の1日あたりの摂取カロリーが増加したり、3か月後にスクロースの摂取が増加したりすることが指摘されている。しかし、SGLT2阻害薬によって患者自身の経験として食欲に影響しているかは明らかになっていない。本研究は2型糖尿病患者におけるSGLT2阻害薬による食欲の影響を検討することを目的としている。



東北地方の心臓病患者における除雪の在り方を考える

テーマ1 心疾患患者を対象とした除雪作業の実態調査

テーマ2 健常者の除雪時のパラメータから心負荷の少ない除雪方法を検証する

JA秋田厚生連平鹿総合病院 看護部 リハビリテーション科 看護師 鍛冶 優子

本研究は、東北地方の心臓リハビリテーション指導士資格を有する看護師による多施設共同研究です。東北地方は豪雪地域が広がり、除雪は必要不可欠な日常生活動作です。その負荷は、6Met'sとされ、心臓病においては避けるべき労働とされており、種々の理由で、患者自身で行わなければならない場合も少なくありません。心臓病患者の除雪負荷の軽減について記載された書物はないため、除雪の現状、除雪時のパラメータ評価から、心負荷の少ない除雪方法を見出し、心臓病教育に生かすことを目的としております。



病院看護師と訪問看護師における心不全患者に対するアドバンス・ケア・プランニング連携体制の構築に向けた実態調査

琉球大学病院 看護部 看護師 田場 あやね

アドバンス・ケア・プランニング(ACP)は、共同で繰り返し話し合いを行うプロセスであり、病院と地域における連携が重要視されていますが、その方法は未確立です。本研究を通して沖縄県の訪問看護ステーションでのACP実施状況を調査し、ACP実施に対する課題を見出すことで、病院と地域の連携体制の構築や沖縄県の文化的背景を捉えたACPの方法を明らかにすることを目指しています。



先駆的・高度医療を提供するICUにおけるリソースナースの活用と評価

国立循環器病研究センター 看護部 看護師長 時廣 亜希子

循環器病の制圧を目的とする政策医療を担う国立循環器病研究センターのICUは心臓血管外科に関して先駆的・高度医療を提供する使命があり、質の高い医療と看護を提供することが求められています。そこで、ICUに所属する急性・重症患者看護専門看護師、特定行為研修修了者等のリソースナースを活用し、専門性の発揮、チーム医療の推進、看護師の実践能力獲得支援に取り組むことにより、ICUにおける医療・看護の質を向上させることを目指します。



慢性期にある心不全患者のスピリチュアリティを支える看護ケアの現状とその関連要因の検討

京都府立医科大学医学部 看護学科 助教 山本 裕子

慢性期にある心不全患者は、心機能の低下により失ったものが多く、自己の存在の意味や価値を持ちにくいなどの、スピリチュアルな側面からの苦痛を抱えていると言われております。本研究では、慢性期にある心不全患者のスピリチュアリティを支える看護ケアの実態を把握し、その関連要因を明らかにすることを目的としています。これにより、スピリチュアリティを支える具体的な支援内容への示唆を得ることを目指します。

健活！チャリティ・ウォーク 2023

2023年3月21日（火・祝）、読売テレビ主催の「健活！チャリティ・ウォーク2023」が開催されました。昨年5月に続き2回目となる本イベントには910人もの方が参加され、大阪城公園をスタートし、造幣局や天満橋などの大阪市内の名所を巡りながらウォーキングを楽しまれました。



当財団は国立循環器病研究センターとともに共催で参加させていただき、当日はブースを構え「知っておきたい

循環器病あれこれ（小冊子）」を配布いたしました。なお、本イベントの参加費と寄付金は当財団にご寄付いただいております。



読売テレビ放送株式会社は、2023年より「循環器病征圧プロジェクト」として、年間を通して循環器病予防啓発のためのイベントを実施されています。私ども循環器病研究振興財団は、国立循環器病研究センターとともに今後も当該イベントに携わらせていただき、循環器病の予防啓発に取り組んで参ります。

第36回循環器病チャリティ・ゴルフ

◆ゴルフ大会◆

2023年9月30日（土）、兵庫県西宮市のよみうりカントリークラブにおいて、恒例の「循環器病チャリティ・ゴルフ」が開催されました。この大会は、読売グループ4社（読売テレビ、読売新聞社、報知新聞社、読売ゴルフ）の主催並びに厚生労働省をはじめ近畿圏の自治体、医師会などの後援により行われています。今回は、24社がご協賛され、112名が参加されました。

◆医療セミナー・表彰式・基金贈呈式◆

10月2日（月）、読売テレビ 10hallにおいて、医療セミナー

が開催され、国立循環器病研究センター 脳神経内科部長 猪原 匡史先生が「口は災いの元：むし歯・歯周病と脳卒中の危ない関係」をテーマにご講演をされました（要旨はP9～P11）。



医療セミナー後、10plazaに会場を移して行われたゴルフ大会の表彰式では、個人、団体の優勝者等の表彰がありました。最後に、大橋善光 循環器病チャリティ・ゴルフ運営委員会委員長（読売テレビ代表取締役社長）より北村惣一郎理事長にチャリティー基金の贈呈があり、1,029万7千円をご寄付いただきました。

チャリティ・ウォーク並びにチャリティ・ゴルフで頂きました

皆様からの貴重なご浄財は、循環器病の知識の普及・予防啓発に役立てて参る所存です。読売テレビ放送株式会社をはじめ、参加者の皆様、関係各位のご支援に心より感謝申し上げます。

【第36回循環器病チャリティ・ゴルフ医療セミナー】（要旨）

『口は災いの元：むし歯・歯周病と脳卒中の危ない関係』

国立循環器病研究センター
脳神経内科
部長 猪原 匡史

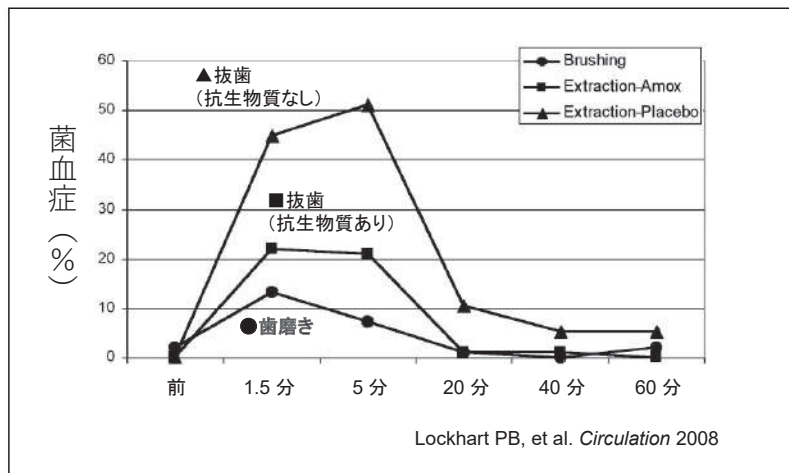


はじめに

我が国では、口は災いの元、英語圏でも Out of the mouth comes evil という全く同じ意味のことわざがある様に、口腔と全身の関わりは古くから知られてきました。しかし、我が国では医学部と歯学部の教育が別々であることも手伝い、医学と歯学の連携はこれまでやや希薄でした。しかし、腸内細菌と全身疾患の関連が注目され、「腸活」などという言葉も生まれてきましたから、消化管の入り口である「口腔」と全身の病気、特に循環器疾患との関連にも今まで以上に光が当たるようになってきました。

ヒトの遺伝子の数は2万~2万5000と言われていますが、ヒト1人の体の中に生息する細菌の遺伝子の数は実に3百万を超えることが分かっています。消化管に生息する細菌の重さだけで1-2Kgともいわれていますから、

ヒトは消化管に生息する星の数ほどもある常在細菌たちと共生していることになります。この細菌、ヒトにとって善玉と悪玉がいて、普段はバランスがとれているのですが、ひとたび悪玉が善玉を凌駕するようになると体の変調につながる



ことは、これだけの細菌数ですから 図1：拔牙や歯磨きにより口腔細菌が血中に入り、菌血症を起こす確率容易に想像できるでしょう。歯磨きでも、少なくとも10人に1人の血液中に口腔内細菌が入り込んでいるという研究もありますから（図1）、口腔内の衛生環境を常に整えなければいけません。そして、むし歯（う蝕）の原因となるミュータンス菌や、歯周病の原因となる様々な菌が上にのべた病気以外にもいろいろな全身の病気を起こすことも明らかになってきています。

1. 口腔細菌が脳卒中を引き起こす機序

口腔は、消化管・気道の入り口であり、腸管内と共通した免疫機構を有すると同時に、特に歯周組織に関しては独自の解剖学特徴を有しています。誤解を恐れずに言えば、粘膜に骨（歯）が突き刺さっているような構造をしています。したがって、その突き刺さった部分に出来た隙間である歯肉溝が広がって歯周ポケットが形成されると、常在菌が侵入し細菌の塊である歯垢（プラーク：白い「うんち」とも言われます）がたまってきます（図2）。歯周ポケットでは、免疫の働きによる細菌の駆除が起こりにくいことも分かっています。

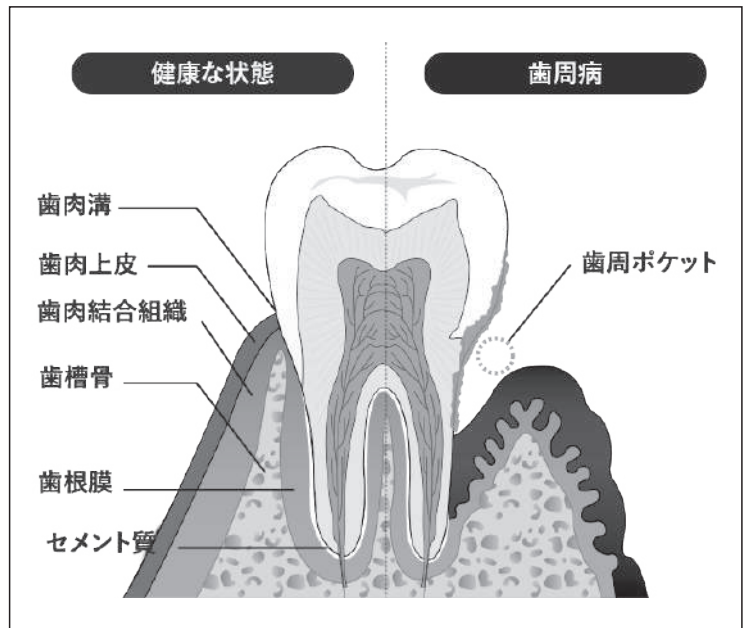


図2：歯の構造、左が健康な状態、右が歯周病

この歯周ポケットで増殖した細菌がどのように脳卒中に関わるのでしょうか？その機序には大きく分けて3つの機序が考えられています（図3）。すなわち、口腔細菌が脳に直接到達して脳の血管を傷つける機序、口腔細菌が作り出す毒性因子によって脳の血管が傷む機序、最後に口腔細菌が腸へ移行して腸内細菌叢の乱れを誘導し炎症を起こしてしまう機序です。これら3つの機序は互いに影響し合いながら、脳卒中の発症に影響を与えていると推測されています。

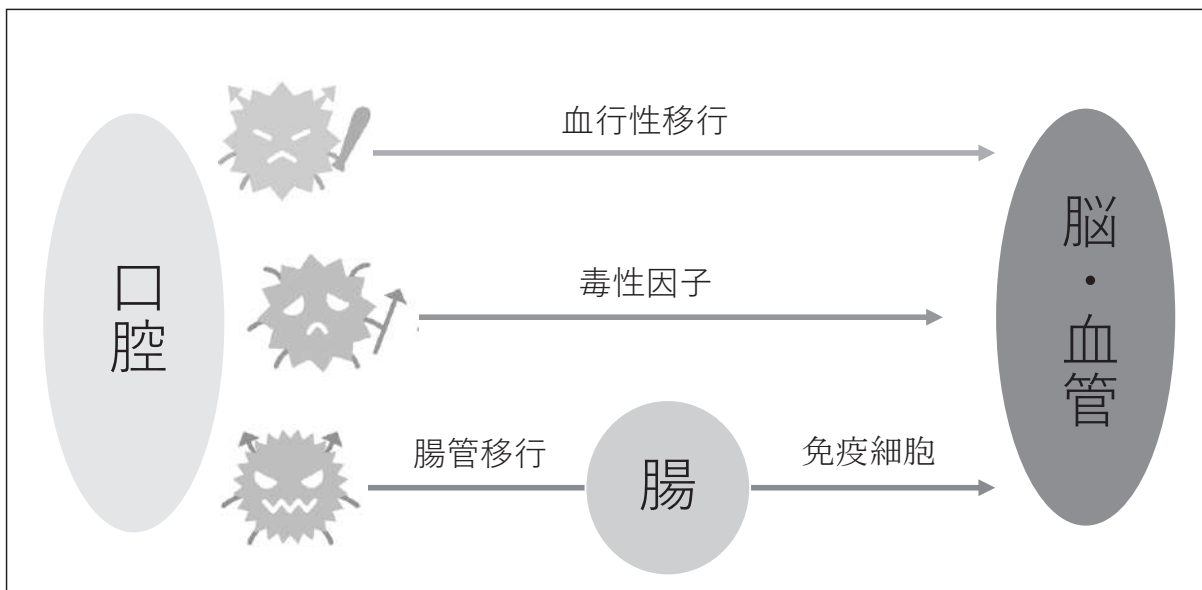


図3：口腔細菌が脳血管を傷つける3つの機序

2. RAMESSES 研究—口腔細菌と脳卒中の関連を調べる多施設研究—

現在我が国で、RAMESSES (Risk Assessment of *cnM*-positivE *S.* mutans in *StrokE* Survivors) 研究が進行中です (図 4)。

どうしてRAMESSES (ラムセス) 研究と名付けられたかということ、エジプトで最も有名なファラオであるラムセス II世は生前、歯科疾患と動脈硬化で苦しんでいたことが史実で明らかになっているからです。今では証明するすべはありませんが、ラムセスII世も悪玉むし歯菌を保有されていたのかもしれません。もしそうだとすれば、この菌は紀元前から脈々と受け継がれている可能性すらあります。本研究では、1年以内に脳卒中を起こし、脳深部の微小出血を有する方で、悪玉むし歯菌の有無を確認し、脳微小出血などの頭部MRI所見の変化、そして脳卒中の発症、認知機能低下などを観察することでこの細菌がいかほどに「悪玉」であるかを突き止めることになっています。



図 4 : RAMESSES 研究

3. 脳卒中予防のための口腔ケア

一度脳卒中を起こされた方に、口腔ケアを行うことによってどれほど脳卒中の再発が抑えられるのか、実はまだ十分なデータはありません。また、三つ子の魂百までと言いますが、三歳までに形成された口内の細菌組成は終生大きくは変化しないと言われています。しかし、口腔環境を整えて、脳卒中に関与する口腔細菌を減らすことで一定の成果は得られると考えられています。それは、口腔内の悪玉むし歯菌や悪玉歯周病菌を減らすことが出来れば、それらが血管内に忍び込んで脳に移行したり、毒素を産生したり、腸へ移行して悪さをしたりすることを完全ではなくとも最小限に抑えることが出来るからです。実際、国立循環器病研究センターに入院された患者さんで、初回の脳出血発症後に血圧の厳格なコントロールを施行したにもかかわらず1年以内に再発が見られ、そのタイミングで悪玉むし歯菌が検出された方がおられました。そこで、歯科受診で口腔ケアの継続的な導入を行い3年以上脳出血の再発が見られなかった、という方がおられました。特に脳出血を起こしたことがある方、脳ドックで脳微小出血が見つかった方では、口内環境を整えることが必須と言えます。「口は災いの元」を合言葉に、脳卒中予防のためにまずは口内環境を整えることから始めてみませんか？

令和4年度事業報告書

令和4年度においては、助成事業、普及支援事業、調査研究事業の3分野の事業を行った。

【1】助成事業

(40,738千円)

1. 公募研究助成

(18,500千円)

(1) 公募自由課題研究助成「山内進循環器病研究助成」

(7,500千円)

【研究テーマ】循環器病に関する、臨床、基礎、トランスレーショナルの3分野についての研究

【応募数：41課題】

	研究課題	研究者	所属・職名	助成交付額
1	心血管疾患リスクを早期に予測可能なコレステロール引き抜き能測定法の開発と評価	大川 龍之介	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 先端分析検査学分野 教授	2,500千円
2	中胚葉において循環器形成細胞が誘導される分子基盤解明	橋本 寿之	慶應義塾大学医学部 予防医療センター 助教	2,500千円
3	心臓弁形成を制御する「血流ベクトル」を認識した力学応答原理の解明	福井 一	国立循環器病研究センター研究所 細胞生物学部 室長	2,500千円

《研究発表会開催予定》 令和5年10月30日(月)(会場：国立循環器病研究センター)

(2) パイエル循環器病研究助成

(10,000千円)

【研究テーマ】糖尿病と循環器疾患

【応募数：41課題】

	研究課題	研究者	所属・職名	助成交付額
1	エネルギー代謝障害に着目した糖尿病性心腎連関の新規病態解明および新規治療法探索	小豆島 健護	横浜市立大学医学部 循環器・腎臓・高血圧内科学 助教	2,500千円
2	糖尿病性心筋症における心筋変性機構の解明	寺本 了太	理化学研究所 生命科学研究センター 基礎科学特別研究員	2,500千円
3	糖尿病合併 HFpEF での O-結合型グリコシル化に着目した HFpEF 治療の新展開	天満 太郎	北海道大学病院 循環器内科 助教	2,500千円
4	脂肪由来アディポネクチンと肝由来 XOR の糖尿病・代謝性血管障害における意義の解明	藤島 裕也	大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学 助教	2,500千円

《研究発表会開催予定》 令和5年9月8日(金)~10日(日)(第71回日本心臓病学会学術集会)

(3) 循環器疾患看護研究助成

(1,000千円)

【研究テーマ】自由課題(循環器疾患看護に関する研究)

【応募数：8課題】

	研究課題	研究者	所属・職名	助成交付額
1	慢性心不全患者へのアドバンス・ケア・プランニングに対する循環器病棟看護師の認識・ケアの実態	樺田 敦子	国立病院機構京都医療センター 看護部2病棟7階 看護師	200千円
2	プライマリー経皮的冠動脈インターベンションを受ける患者の家族への心理的支援の検討	迫田 典子	東京医療学院大学 保険医療学部 講師	200千円
3	心不全患者の在宅移行支援評価尺度(看護師版)の開発と信頼性・妥当性の検証	吉村 舞	北海道大学大学院保健科学院 保健科学専攻 博士後期課程	200千円
4	小児リンパ浮腫症例のQOL評価尺度(LYMPHOQOL日本語版)の妥当性の検証	臺 美佐子	藤田医科大学 保健衛生学部 准教授	200千円
5	院内発症脳梗塞を早期発見するための看護師教育プログラムの作成と内容妥当性の検討	大久保暢子	聖路加国際大学大学院 看護学研究科 ニューロサイエンス看護学 准教授	200千円

《研究発表会開催予定》 令和5年9月17日(日)(第20回日本循環器看護学会学術集会)

2. 指定研究助成

(22,238千円)

(個別研究)

	研究課題	研究代表者	所属機関・職名	助成金額 助成終了年度
1	血管病変の早期診断治療における画像処理情報技術の向上に関する研究	飯田秀博	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 客員教授	(継続) 470千円 令和6年度
2	メタボリックシンドロームの動脈硬化症の発症・進展に及ぼす影響に関する基礎的、臨床的研究	野口輝夫	国立循環器病研究センター 副院長 心臓血管内科部門 部長	(継続) 30千円 令和6年度
3	脳保護、および、脳精神機能の改善に関する研究	柳本広二	日本BDNF株式会社 研究所長	(終了) 1,200千円 令和4年度
4	弓部大動脈疾患に対する人工血管置換術とステントグラフト内挿術の比較	湊谷謙司	京都大学大学院医学研究科 心臓血管外科 教授	(継続) 500千円 令和5年度
5	心不全に対する外科的治療法の開発	藤田知之	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 心臓血管外科学分野 教授	(継続) 1,500千円 令和6年度
6	先天性心疾患における遠隔期成績向上を目指した外科治療法の開発	市川 肇	国立循環器病研究センター 小児心臓外科 部長	(継続) 170千円 令和5年度
7	腹部ステントグラフト内挿術における、持続するtype II エンドリークの瘤拡大へ及ぼす影響—予防的塞栓術の必要性に関する研究	松田 均	国立循環器病研究センター 心臓血管外科・血管外科 部長	(終了) 1,800千円 令和4年度
8	生体弁機能不全に対する高圧バルーンを使用した Valve-in-Valve 治療に関する研究	小林順二郎	国立循環器病研究センター 名誉院長	(継続) 3,000千円 令和6年度
9	血圧および血行動態の日内変動に関する研究	岩嶋義雄	関西医科大学香里病院 内科部長	(継続) 50千円 令和5年度
10	近赤外線分光法による局所脳酸素飽和度の精度に関する研究	吉谷健司	国立循環器病研究センター 輸血管理部長	(終了) 558千円 令和4年度
11	循環器病におけるイメージングバイオマーカーを用いた新たな包括的画像解析技術の開発と臨床応用	福田哲也	国立循環器病研究センター 放射線部 部長	(継続) 2,200千円 令和8年度
12	回収式自己血輸血の止血機能に関する研究	吉谷健司	国立循環器病研究センター 輸血管理部長	(継続) 200千円 令和6年度

(多施設共同研究)

	研究課題	研究代表者	所属機関・職名	助成金額 助成終了年度
13	心臓核医学検査における国内データベース作成のための調査研究 (J-ACCESS5)	西村恒彦	京都府立医科大学 特任(名誉)教授	(継続) 550千円 令和5年度
14	急性脳血管症候群登録観察研究 (ACVS registry Study)	内山真一郎	山王病院・山王メディカルセンター 脳血管センター長	(継続) 100千円 令和5年度
15	シタグリプチンによる糖尿病大血管症の進展抑制効果の検討 Extension Study (SPIKE study)	綿田裕孝	順天堂大学 医学研究科 代謝内分泌内科学 教授	(終了) 3,910千円 令和4年度
16	大動脈解離に対する弓部・下行大動脈のステントグラフト内挿術の中長期成績の検討	松田 均	国立循環器病研究センター 心臓血管外科部門 血管外科 部長	(継続) 6,000千円 令和8年度

【2】普及支援事業

(6,279千円)

1. 研究成果発表

(693千円)

(1) 研究業績集の発行

(110千円)

前年度の研究助成の成果を研究報告集にまとめて、大学・研究所等へ配布
(指定研究助成：200部発行)

(2) 研究発表会の開催

(583千円)

研究発表会を開催し、前年度に実施した公募研究助成の研究成果の発表

	発表会名	開催日時・場所等
1	「バイエル循環器病研究助成」研究発表会	・日時：令和4年9月25日(日)13:10~14:40 ・会場：第70回日本心臓病学会学術集会(国立京都国際会館) ・テーマ：心不全における慢性腎臓病
2	「循環器疾患看護研究助成」研究発表会	※2021年度の採択者が1名だったため開催無し。2022年度採択者5名と合わせて2023年9月17日に開催予定。
3	「山内進循環器病研究助成」研究発表会	・日時：令和4年11月17日(木)15:00~16:20 ・会場：国立循環器病研究センターエントランス棟3階講堂

2. 移植医療支援等事業

(0千円)

循環器疾患に関する移植医療の円滑な実施のための支援(アグネス基金)

3. 予防啓発活動

(5,586千円)

(1) 小冊子

(5,082千円)

『知っておきたい循環器病あれこれ』の刊行
循環器病予防啓発の小冊子を奇数月に発行し、国立循環器病研究センター、健康保険組合、講演会などで
一般市民に配布(年間18,000部発行)

	タイトル	執筆者		発行日
152	若い人にも起こる認知症 ～若年性認知症の原因と対処法～	猪原 匡史	国立循環器病研究センター 脳神経内科 部長	令和4年5月1日
153	災害時における循環器病 ～エコノミークラス症候群と たこつぼ心筋症～	辻 明宏 野口 輝夫	国立循環器病研究センター 肺循環科 心臓血管内科 副院長	令和4年7月1日
154	思わぬ原因の高血圧～腎血管性高血圧 と原発性アルドステロン症～	吉原 史樹	国立循環器病研究センター 腎臓・高血圧内科 部長	令和4年9月1日
155	肺高血圧症はどんな病気？ ～その原因と治療法の進歩～	大郷 剛	国立循環器病研究センター 肺循環科 医長	令和4年11月1日
156	脳卒中・心筋梗塞の前触れと早期対策	古賀 政利 塩澤 真之 田原 良雄	国立循環器病研究センター 脳血管内科 部長 脳血管内科 心臓血管内科 医長	令和5年1月1日
157	進む心臓弁膜症のカテーテル治療	泉 知里	国立循環器病研究センター 心臓血管内科部門 心不全科 部長	令和5年3月1日

- (2) 機関誌『季報』の発行 (191千円)
循環器病に関する情報の提供、財団の情報公開など
- (3) ホームページの運営 (https://www.jcvrf.jp) (296千円)
循環器病に関する情報の提供、財団の情報公開、助成事業の公募案内など
- (4) 市民健康講座 (0千円)
一般市民を対象に循環器病予防に関する知識の普及および啓発のために講座を開催
- (5) キャンペーン (8千円)
阪神甲子園球場のオーロラビジョン、ライナービジョンで財団のPRと予防啓発
- (6) 共催・後援名義使用 (9千円)

(共催)

	名称	主催者	日時・場所
1	健活！チャリティ・ウォーク2022	読賣テレビ放送株式会社	・令和4年5月28日（土） ・大阪城公園
2	2022年度脳卒中中間ポスター	日本脳卒中協会 理事長 峰松一夫	・令和4年10月1日～31日 ・全国の医療機関等に掲示
3	健活！チャリティ・ウォーク2023	読賣テレビ放送株式会社	・令和5年3月21日（火・祝） ・大阪城公園

(後援)

	名称	主催者	日時・場所
1	全国生活習慣病予防月間2023ならびに市民公開講演会	日本生活習慣病予防協会 理事長 宮崎 滋	・令和5年1月12日18:30～20:30 ・日比谷コンベンションホール
2	「National Wear Red Day」キャンペーン	シナジーワールドワイド・ジャパン 合同会社	・令和5年2月3日～28日 ・主催者本社サロン及び特設サイト上で展開
3	2022年度心房細動週間ポスター	日本脳卒中協会・理事長 峰松一夫 日本不整脈心電学会・理事長 清水 渉	・令和5年3月9日～3月15日 ・新聞広告掲載等

【3】調査研究事業

(2,364千円)

(完成基準)

	研究課題	研究代表者	所属機関・職名	事業費 終了年度
1	日本における急性心筋梗塞患者の治療および予後の実態調査（JAMIR 前向き研究）	安田 聡	東北大学大学院医学系研究科 循環器内科学分野 教授	（継続） 2,364千円 令和5年度

令和5年度事業計画書

【1】助成事業

(44,576千円)

1. 公募研究助成

(21,000千円)

	助成名	研究テーマ	助成金額
1	公募自由課題研究助成 【山内進循環器病研究助成】	「不整脈」をテーマに、臨床、基礎（疫学含む）、トランスレーショナル（基礎・臨床を含む）のいずれかの分野に関する研究	@2,500千円×4課題=10,000千円
2	バイエル循環器病研究助成	動脈硬化と炎症・免疫メカニズム	@5,000千円×1課題=5,000千円 @2,500千円×2課題=5,000千円
3	循環器疾患看護研究助成	（自由課題）循環器疾患看護に関する研究	@200千円×5課題=1,000千円

2. 指定研究助成

(23,576千円)

(個別研究)

	研究課題	研究代表者	所属機関・職名	助成金額
1	血管病変の早期診断治療における画像処理情報技術の向上に関する研究	飯田秀博	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 客員教授	(継続) 762千円 R6 終了予定
2	メタボリックシンドロームの動脈硬化症の発症・進展に及ぼす影響に関する基礎的、臨床的研究	野口輝夫	国立循環器病研究センター 心臓血管内科部門 部長	(継続) 3,000千円 R6 終了予定
3	弓部大動脈疾患に対する人工血管置換術とステントグラフト内挿術の比較	湊谷謙司	京都大学大学院医学研究科 心臓血管外科 教授	(継続) 400千円 R5 終了予定
4	心不全に対する外科的治療法の開発	藤田知之	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 心臓血管外科学分野 教授	(継続) 5,000千円 R6 終了予定
5	先天性心疾患における遠隔期成績向上を目指した外科治療法の開発	盤井成光	国立循環器病研究センター 小児心臓外科 部長	(継続) 500千円 R5 終了予定
6	生体弁機能不全に対する高圧バルーンを使用した Valve-in-Valve 治療に関する研究	小林順二郎	国立循環器病研究センター 名誉院長	(継続) 2,000千円 R6 終了予定
7	血圧および血行動態の日内変動に関する研究	岩嶋義雄	関西医科大学香里病院 内科部長	(継続) 100千円 R5 終了予定
8	循環器病におけるイメージングバイオマーカーを用いた新たな包括的画像解析技術の開発と臨床応用	福田哲也	国立循環器病研究センター 放射線部 部長	(継続) 5,000千円 R8 終了予定
9	回収式自己血輸血の止血機能に関する研究	吉谷健司	国立循環器病研究センター 輸血管理部長	(継続) 300千円 R6 終了予定

(多施設共同研究)

	研究課題	研究代表者	所属機関・職名	助成金額
10	虚血性心疾患における心電図同期 SPECT (QGS) 検査に関する国内臨床データベース作成のための調査研究 (J-ACCESS)	西村恒彦	京都府立医科大学 特任(名誉)教授	(継続) 514千円 R5終了予定
11	急性脳血管症候群登録観察研究 (ACVS registry Study)	内山真一郎	山王病院・山王メディカルセンター 脳血管センター長	(継続) 3,000千円 R5終了予定
12	大動脈解離に対する弓部・下行大動脈のステントグラフト内挿術の中長期成績の検討	松田 均	国立循環器病研究センター 心臓血管外科・血管外科 部長	(継続) 3,000千円 R8終了予定

【2】普及支援事業 (10,455千円)

1. 研究業績発表 (1,603千円)

1	研究業績集の発行	前年度に実施した研究助成の研究成果をまとめ、国立病院・大学・研究所等へ配布する。また、ホームページ上で公開する。	110千円
2	研究発表会の開催	前年度に実施した公募研究助成の研究成果を関連学会等において発表をする。	1,493千円

2. 学術活動支援 (1,000千円)

循環器病に関する小規模研究、セミナー等に対する支援

3. 移植医療支援 (250千円)

循環器疾患に関する移植医療の円滑な実施のための支援 (アグネス基金)

4. 予防啓発活動 (7,602千円)

(1) 小冊子 (5,560千円)

『知っておきたい循環器病あれこれ』の刊行

循環器病予防啓発の小冊子を奇数月にそれぞれ 3,000 部発行し、国立循環器病研究センター、健康保険組合、講演会などで一般市民に配布する。

(「知っておきたい循環器病あれこれ」発行予定表)

	タイトル	執筆者		発行予定日
158	心臓病の予防法と負担の少ない治療法	大津 欣也	国立循環器病研究センター 理事長	令和5年5月1日
159	脳卒中で倒れないためのリスク管理	飯原 弘二	国立循環器病研究センター 病院長	令和5年7月1日
160	“口は災いの元”－むし歯・歯周病と脳卒中の危ない関係－	猪原 匡史	国立循環器病研究センター 脳神経内科 部長	令和5年9月1日

	タイトル	執筆者		発行予定日
161	腸内細菌と循環器病	中岡 良和 殿村 修一	国立循環器病研究センター研究所 血管生理学部 部長 リサーチフェロー	令和5年11月1日
162	新しい循環器薬：糖尿病・高血圧・心不全	野口 輝夫	国立循環器病研究センター 副院長	令和6年1月1日
163	心臓・脳・血管を画像で診る	福田 哲也	国立循環器病研究センター 放射線部 部長	令和6年3月1日

(2) 機関誌『季報』の発行 (191 千円)

循環器病に関する情報の提供、財団の情報公開などを行う。

(3) ホームページサービス事業 (<http://www.jcvrf.jp/>) (296 千円)

循環器病に関する情報の提供、財団の情報公開、助成事業の公募などを行う。

(4) 市民健康講座 (1,555 千円)

一般市民を対象に循環器病予防に関する知識の普及および啓発のために講座を開催する。 <1,225 千円>

循環器病チャリティーゴルフ血圧計支援事業 <330 千円>

(5) キャンペーン

阪神甲子園球場において財団PRと予防啓発を行う。

(6) 共催名義使用

団体等が行う循環器病に関する市民講座の共催、後援などを行う。

【3】 調査研究事業

(12,598 千円)

当財団の自主事業として行う研究。なお、研究者への助成を目的とするものではない。

	研究課題	研究代表者	所属機関・職名	事業費
1	日本における急性心筋梗塞患者の治療および予後の実態調査 (JAMIR) サブ解析	安田 聡	東北大学大学院医学系研究科 循環器内科学分野 教授	(継続) 12,598 千円 R5 終了予定

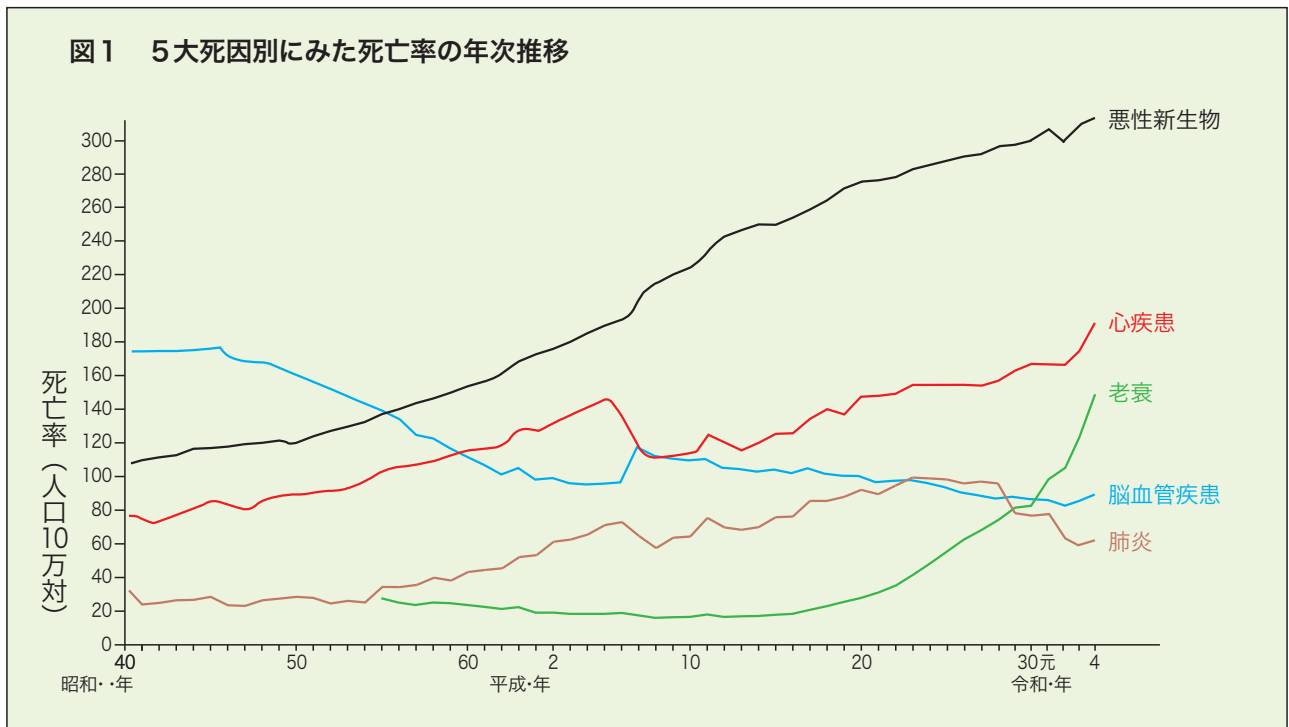
循環器病をめぐる統計

厚生労働省が発表した令和4年人口動態統計によると、5大死因別「**悪性新生物**、**心疾患（高血圧性を除く）**、**老衰**、**脳血管疾患**、**肺炎**」の死亡者数、死亡率（人口10万対）及び全死亡者に占める割合は、表1のとおりである。また、5大死因別死亡率の年次推移は図1のとおりである。

表1 5大死因別による死亡者数、死亡率及び全死亡者に占める割合

	令和4年度			令和3年度		
	死亡者数	人口10万対死亡率	全死亡者に対する割合	死亡者数	人口10万対死亡率	全死亡者に対する割合
悪性新生物	385,797人	316.1	24.6 %	381,505人	310.7	26.5 %
心疾患	232,964	190.9	14.8	214,710	174.9	14.9
老衰	179,529	147.1	11.4	152,027	123.8	10.6
脳血管疾患	107,481	88.1	6.9	104,595	85.2	7.3
肺炎	74,013	60.7	4.7	73,194	59.6	5.1
その他	589,266	482.9	37.6	513,825	418.5	35.6
全死因	1,569,050	1285.8	100.0	1,439,856	1172.7	100.0

図1 5大死因別にみた死亡率の年次推移



注：

- 1) 平成6・7年の**心疾患の低下**は、死亡診断書（平成7年1月施行）における「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きの影響によるものと考えられている。
- 2) 平成7年の**脳血管疾患の上昇**の主な要因は、ICD-10（平成7年1月適用）による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられている。
- 3) 平成9年までは、**心疾患と脳血管疾患**による合計死亡者数は、悪性新生物による死亡者数を上廻っていたが、平成10年以降では若干下廻る結果となっている。悪性新生物（特に肺がん・結腸・膵）による死亡者数の上昇傾向が大きく影響している。
- 4) 平成30年には、**老衰**による死亡者が、**脳血管疾患**による死亡者数を抜いて第3位となっている。なお、**老衰**のグラフは、e-Stat（政府統計の総合窓口）よりデータが入手可能な、昭和55年を始点とさせて頂いております。



知っておきたい 循環器病あれこれ



公益財団法人 循環器病研究振興財団へのご寄付

ご寄付いただきました方々に感謝の意を込めて、ご芳名を掲載させていただきます。
(令和4年11月～令和5年10月)

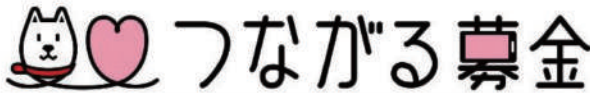
〔個人〕

大窪天三幸様 新保誠敏様 大門宏夫様 山本 聡様 つながる募金

〔法人〕

エア・ウォーター・リンク株式会社様 MSD株式会社様 株式会社大塚製薬工場様
 小西医療器株式会社様 シーメンスヘルスケア株式会社様 株式会社ジェイ・エム・エス様
 シナジーワールドワイド・ジャパン合同会社様 宗教法人生心科学会様 第一三共株式会社様
 第一生命保険株式会社様 大同生命保険株式会社様 テルモ株式会社様 ニプロ株式会社様
 日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社様 日本メジフィジックス株式会社様
 日本ライフライン株式会社様 バイエル薬品株式会社様 PDRファーマ株式会社様
 平和物産株式会社様 宮野医療器株式会社様 讀賣テレビ放送株式会社様

※公表についてご承諾いただいた方を掲載させていただいております（五十音順）。



「つながる募金」はソフトバンク株式会社が提供するQRコード等からのシンプルな操作でご寄付いただけるサービスです。

右記QRコードを読み取っていただくと寄付画面に移行します。
 “ソフトバンク”のスマートフォンの利用料金の支払いと一緒にご寄付いただけます。

【ソフトバンクのスマートフォン以外をご利用の場合】

- ・クレジットカードでのお支払いとなるため、クレジットカード番号等の入力が必要となります。
- ・継続期間を1ヵ月（1回）、3ヵ月、6ヵ月、12ヵ月から選択していただけます。寄付期間を選択して寄付されている場合、途中で寄付の停止や寄付期間の変更はできません。

※1,000円以上のご寄付については、領収書の発行にも対応させていただきます。
 希望される場合は、ご寄付のお申込み後、「団体からの領収書を希望する」ボタンを押し、お手続きください。



ソフトバンクのスマートフォン



ソフトバンク以外



公益財団法人
循環器病研究振興財団
 Japan Cardiovascular Research Foundation

〒564-0027 大阪府吹田市朝日町1番301-3
 (吹田さんくす1番館3階)
 TEL 06-6319-8456 FAX 06-6319-8650
<https://www.jcvrf.jp/>